

移住等の促進に向けた実証調査

岩手県 陸前高田市（NPO法人高田暮舎）

若手アーティストや美大生等を対象とした移住及び二地域居住の実証

調査の目的

- 陸前高田市の空き家等を活かし、アーティスト・イン・レジデンスプログラム（※1）を行うことで、関係人口増加、移住・二地域居住の促進を目的とする。
- 国内の「若手アーティスト」「美大生」に対し、市内に滞在と就労をしながら創作活動を実施。特定セグメントを対象とすることで、地方個々の特色や資源を活かした「競争ではない共生」の可能性を探った。
※1 アーティストが一定期間ある地域に滞在し、常時とは異なる文化環境で制作等を行う

本業務の内容

- アーティスト・イン・レジデンスプログラムを陸前高田市の特性に合う形にアレンジをして実施し、同市の関係人口増加、参加者の移住や二地域居住へとつなげる。
- 陸前高田市の持つ特色や資源を活かす形で「若者」「子育て世代」の中から、さらに対象を「若手アーティスト」「美大生」に特定し「住まい」「なりわい」「コミュニティ」の支援を行う。日本の人口減少社会で、移住者の取り合い（＝競争）をするのではなく、地域特性を活かした分かち合い（＝共生）を実証した。
- 具体的には、「住まい」は安価で手軽に利用できる滞在施設の提供、「なりわい」は半美×半〇の実現、「コミュニティ」は創作活動の共同制作や展示を通じた地域住民との交流などの支援を実施した。

本業務の結果

計8組10名のアーティストの受け入れを実施した。

期間：4～44日間
属性：男性3名、女性7名、20～30代、画家・ダンサー・作家・役者等

①シェアハウスの利用実証	計画：8人	結果：8組10人
②なりわいによる半美×半〇の実証	計画：8人	結果：10人
③地域住民の交流数	計画：80人	結果：約200名



（左 滞在の様子 中央 わかめ漁への参加 右 地域住民との交流）

本業務の課題と工夫

- レンタカーや公共交通機関等の利便性が低いため、アーティスト自身も自由に移動できない不便さやストレスを感じるが多かった。
- 地域住民等の協力で、移動を支援してもらった。課題解決だけでなく、アーティスト等と地域住民と一緒に移動をすることで、交流時間が長くなり、愛着等を醸成することが出来た。

本業務の成果と課題、提言

- 地域の魅力や強みと紐付きの強い特定セグメントを設定すると、対象者と地域住民に事業の改善や拡大に寄与する。また、「都市から地方に通う」だけでなく「地方から地方に通う」や「地方から地方の送り合い」の可能性があった。
- 対象者への継続的な接点や関係性をCRM等を活用し持ち続けることが重要であり、プログラム評価の観点を入れ戦略的に実施する必要もある。
- 特定セグメントを対象にした、地域の資源や特徴を活かした移住・二地域居住支援の検討による「競争ではない共生」が有効であること、かつ、「地方から地方の送り合い」の可能性があり、他地域でも有効であると言える。
- 東京一極集中の日本において、各地方が、ヒト・モノ・コト等を整理し、ニーズではなくシーズを軸とした特定セグメントの設定をすることは、「各地方による移住定住者の奪い合い」による「地域間競争の過熱による地域の疲弊」を避けることにつながる。